

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月11日（土） 午後3時から4時30分まで
場 所	滑川交流センター
出席人数	(1) 市 民 13人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計19人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(意見)(滑川学区)</p> <p>自分の頃は、滑川小中学校がなく、宮田小、駒王中に40分程度歩いて通ったおかげで足腰が丈夫になった。今の子どもたちは、人口が増えて滑川小、滑川中ができたので学校が近く、足腰が弱っているかもしれない。孫たちに昔の話をして、意に介さない。便利になった半面、体力がついていないのではないか。</p> <p>かみあい団地ができた頃は、子ども会もたくさんあった。子ども会活動をしていたが、子どもたちが減ってしまって、現在、滑川小の子ども会は1つだけ、来年はゼロになるのではないか。学区内の子どもの減少が著しい。</p> <p>昔は、長男は地元に残って家を継いだが、今は違う。県外や市外で家庭を持っている。学校の統合も大切だが、人口流出を止める手立ても大切だと思う。</p> <p>市長との懇談会で、市営アパートを2棟建てるということだった。人が減っているのに、どうしてかという質問が出た。若い人が入ってくれば良いということだった。</p> <p>統合は仕方ないと思うが、どうすることが一番いいのか話し合いながら進めてほしい。</p> <p>(事務局)</p> <p>市内で徒歩での通学距離が最も長いのは、楡形小学区の2.8km、低学年で1時間くらい。雨天以外は、徒歩で通学している。適正配置を進めていくに当たっては、歩いて通学することを基本にしながら、地域の事情に応じた対策を講じて、子ども達に負担がかからないように考えていきたい。人口減少への対策も重要だが、まずは教育の視点からの適正配置を考えていきたい。</p> <p>(質問)(滑川学区)</p> <p>本来の学区に入学しない、変更を許可する場合のルールを教えてください。</p> <p>(事務局)</p> <p>住所により指定された学校に通うことが原則である。指定の学校より隣</p>

接の学校の方が近いなどの通学上の安全性と利便性、いじめなどにより環境を変える必要がある、指定の学校に希望の部活動がないなどの理由による申請に基づいて教育委員会が許可している。その他、家庭ごとに事情があるので、申請理由が適正であれば許可している。

(意見) (滑川学区)

学校の配置図を見ると、山側に家が多く、海側に学校が多い。かみあい団地ができるころは、学校もできるという話もあったが、今になってみれば作らなくてよかった。学校の配置と住宅をバランスよく計画してほしい。

(事務局)

都市形成の歴史であり、人口の増加に応じて市街地が山側に伸びていった。

今後、新しい学校を新設していくことは考えられないが、いくつかの学校を統合して新しい場所に学校を作るといったようなことがあるかもしれない。そのような場合は、近隣の状況を整理して検討していきたい。

(意見) (滑川学区)

小学校を統合するということになったとして、統合相手として宮田小や田尻小ということになるだろうが、それよりは、滑川小・中学校は、場所も近いので、小中一貫校とすることも可能なのではないか。大人になって自分の学校がなくなってしまうのも寂しい。

(事務局)

単純に小中学校を一貫校にしても、学年ごとの人数は増えない。部活動の種類も増えないし、9年間顔ぶれも変わらないなどの問題が解決できない。

いくつかの学校を集約して新しい小中一貫校とすることで、中1ギャップなどの課題解決や上級生が下級生の面倒を見る、下級生が上級生を手本にする、小中学校の先生方が連携して指導するなどのメリットがある。選択肢として考えていきたい。

(意見) (滑川学区)

現在の滑川中では、3年生5学級、2年生4学級、1年生5学級だと思うが、野球部はチームが組めない、剣道部は廃部という状況。既に部活動に偏りが出ている。部活動のことを考えると、基準の3学級では少ないのではないか。

(事務局)

アンケートでは、中学校は3～4学級が良いという意見が多かった。その背景には、部活動の選択肢が欲しいということがある。

4～5学級にすると部活動の種類は増えるが、広域に統合することにもなり、通学距離が長くなってしまう。地域ごとに考えていかなければならない。部活動については、学校以外の受け皿として地域スポーツクラブの取り組みなどもある。

(教育部長)

今回の基準は、最低限維持したい基準としてお示しした。

(事務局)

中学校では、既に6校が基準を満たしていない。(H29.5.1現在)

今後の減少傾向の中で、さらに減っていくことが見込まれる。そのような学校への対応を優先して考えていかなければならないと思っている。少ないからといって一律に統合ということではなく、どのような対応が考えられるのか、現在、検討していただいている基本方針を基に計画作りをしていきたい。

(質問) (滑川学区)

4歳の孫がいるが、その子たちが入学する頃には、どうなっているか。基準を満たしているか。

(事務局)

各学年2学級を維持するには、230～240人が必要と試算している。滑川小の現在の人数からすれば、当分の間は基準を維持できると考えている。今後、計画を作る上では、学校ごとの推計を出していくので、それを材料として検討していく。

(教育長)

保護者の方は、小中一貫教育について、どのように考えるか。

(意見) (滑川学区)

滑川小と田尻小が適度に混ざり合って滑川中が成り立っているので、小中一貫校を意識したことはなかった。

(意見) (滑川学区)

子ども会がなくなってしまうと異学年の交流がなくなってしまう。小学校の中では異年齢交流(縦割り活動)をやっているだろうが、人数が少なくなり、縦の関係が薄れているのではないかと感じていた。

その意味で小中一貫はいいのではないかと思った。

(意見) (滑川学区)

自身は山部小の卒業生。1学年1クラスで6年間過ごした。全校児童が兄弟のように楽しく過ごしてきた。けんかもするがすぐ仲直りする。いじめもなかった。良い環境で過ごせた。そのような関係は、今の子どもたちにも必要だと思う。人数が多くなるといじめも出てくると思う。自分たちの頃も他の学校ではいじめがあった。山部小では一切なかった。小さい学校でも良い経験をさせることはできると思う。

(事務局)

少人数教育が良いということは、検討委員会からも意見として出ていて、小規模校を否定するものではない。クラスの人数は少なく、学校としてはある程度の人数がいた方が良いという意見をいただいている。クラスの人数は、国・県の基準もあり、市が独自には決めにくい。

日立市でも、できるだけ少人数教育ができるような環境作りに努めている。

(意見) (滑川学区)

2005年からおやじクラブに関わっている。その頃の子どもたちが間もなく親になる。12年やって、ようやく何かの結果が見えるかどうかというところ。学校のサポートをするというシンプルな考えでやってきたが、子どもたちが地元に戻ってきて家庭を築き、次の世代が地域を担ってくれればいいと思っている。

少子化や経済状況など社会的には暗い状況だが、子どもたちには夢を持ってほしい。そのような状況を、自分たちの世代で作れば良いと思ってやっている。地域で安心してのびのびと生活してほしい。魅力ある地域で生活してほしい。

小中学校が協力し、地域が加わり、地域社会全体で子どもたちを育てていくような形を作りたい。そこに子どもが戻って来て子育てしてくれればという希望を持って日々やっている。

母校がなくなるのは寂しいと言っていたが、その頃の子どもたちは、卒業しても母校のことを気にかけてくれて、手伝ってくれたりする。学校は、ただの器ではない。母校がなくなるのは寂しい。

(教育長)

今のご意見は、とても大事だと思う。

適正配置の検討も、子どもたちにとって一番良いことをと考えたのがきっかけになっている。

次を担っていくことになる今の子どもたちのことは、常に考えなければならぬと思っている。どうやって良い環境を作っていくか。地域とともにある学校ということで、コミュニティスクールなど、制度としても仕組みとしてもいろいろ取り組んでいる。

様々な分野と力を合わせながら考えていきたい。

(教育部長)

自分たちが子どもの頃は、地域との関わりや異年齢のかかわりが自然にできていた。うまくいっているというのは、地域との関係が大事なのだろうと思う。子どもが育つための要因は、いろいろあるだろうが、環境を整備するという視点で、大人が考えなければならない。教育に携わっているものだけでなく、皆さんが口を出していくことが大切。

(意見) (滑川学区)

安心して子育てができるように、地域のビジョンを早めに出してほしい。若い人たちに来てもらって子育てをしてもらうことで活性化したいとコミュニティも考えている。

(事務局)

早目に知りたいという声は、いろいろなところで聞く。しっかりと検討した上でお知らせしていくので、地域の皆さんとともに考えていきたい。

(意見) (滑川学区)

公共交通のことも考えてほしい。

(事務局)

今後、まちが良くなっていくためには、いろいろな要件があるだろう。交通も含めてまちの利便性が高まり、人が住みついても、子どもが生まれ、次の世代が生まれるまでには20～30年はかかる。そこを見越しているか考えていかなければならない。

以上